

「マットとのかかわり」

	誕生	8ヶ月	10ヶ月	1歳	1歳3ヶ月	1歳半	2歳	2歳半	3歳	4歳	
運動発達の流れ (発達の特徴や具体的な姿)	原始反射 手足をバタバタさせる 首がすわる 寝返りをする すり這いをする 興味のある方をじっと見る 手を出して物を掴む	腹這いを する お座りを する	つかまり立ちをする 自分で立つ 「いないいないばあ」を喜ぶ	歩き始める 伝い歩きをする	自由に歩き回る しゃがむ 小さい物をつまむ	歩行がスムーズになる 階段を這ってあがる 高い所に登る(40 cm程度)	一段毎足をそろえ階段を昇り降りする ぶらさがる つま先で歩く 1本線を歩く	走る 両足とびをする 高い所から跳び降りる(20~30 cm程度)	交互に足を出し階段を昇り降りする 平均台を横歩きする	平均台を前向きに歩く 片足ジャンプをする	三輪車がこげる でんぐり返しをする けんけんをする ギャロップをする
経験させてほしい(させたい)遊び	マットに触れる	→ 這い這いで登る	→ 援助されながら段差を感じて登り降りする	→ 自分で登り降りする	→ 自分で登り降りする	→ ころころ転がる	→ マットの上でびよんびよん跳ねる	→ 動くマット	→ 引っ張る	→ マットに乗り、引っ張ってもらう	→ 持って運ぶ
		巧技台(10 cm) + マット	→ 四つ這いで登り降りする	→ 手で支えながら台をまたぐ	→ 手の支えなしで、登り降りをする						フープを小さくして色々な動きでくぐる(四つ這い/すり這い/足から/手から)
		マットフープトンネル	→ 這い這いでくぐる	→ 座って左右に身体を揺らす・寝そべる・フープにつかまって立つ	→ 横から出入りする・友だちと一緒にいる・電車や家に見立てて遊ぶ						
		マットぐるぐる(30 cm)	→ 這い這いで登り降りする	→ 手で支えながら台をまたぐ	→ 転がりながら降りる				→ 手の支えなしで、またいで登る・よじ登る	→ 押す/引く/転がす	
		マット斜面	→ 登り降りする・転がる					→ マット+はしご	→ 転がりながら登り降りする	→ 斜面を転がる	
					→ エバーマット*	→ 歩く・バランスをとる	→ マットクライミング	→ 転がりながら登り降りする	→ 手をついて倒れこむ	→ 跳ねる・跳ねて寝ころぶ	
		* 大きさ 130 cm×100 cm厚みが 20 cmのマット。半分に折れるものもある。									
各年齢に共通する保育者の留意点・環境構成	<ul style="list-style-type: none"> • けがをしないように注意し、側で見守りながら必要に応じて援助する。 • 発達に合った高さの設定や声の掛け方を工夫する。 • やりたい意欲を大切にしながら、他児とのかかわりを援助したり見守ったりする。 • 常に個々の発達や技能程度に十分留意して見守り、手を添えたり身体を支えたりするなど状況に応じて援助する。 					<ul style="list-style-type: none"> * 設定場所の周りに遊具が落ちていないか確認するなどの安全対策を行い動きの空間を保障する。 * 状況により場を分散できるように工夫したり人数を制限したりする。 * つまずき防止のため、必ずマットの耳はしまう。 					
発達に応じた・保育者の留意点 * 環境構成	<ul style="list-style-type: none"> • マットの感触(ふわふわ)に親しめるように出しておく。 • 四つ這い時は指手は伸びているか、足の指先も使っているかなど、意識してみる。 • マットフープトンネルなどをくぐる時は、頭を下げているか意識して見る。 			<ul style="list-style-type: none"> • 一方から登り降りするようにし、前の子を押さないことや順番を守るなどのルールや遊び方を伝えていく。 * 一方からの移動を伝える際、目印となるビニールテープなどで順路を示す、スタート地点に目印になるようなものを置くなど視覚に訴えるようにする。 			<ul style="list-style-type: none"> • 遊ぶとき、何かになりきることイメージをもちながら動きが楽しめるようにする。 • マットやはしごをつかむ時に親指と四本指でしっかりと握れているか声を確認する。 • ごっこ遊びの時のコーナー分けとしても使用できる。 				